

荒垣秀雄天声人語賞 高校生の部／中・高校生の部 入選

埼玉県立浦和第一女子高等学校 三年 河合 望愛

忘れられない日がある。昨年十月某日のことだ。私はその日、日比谷の日生劇場で「ニュージーズ」というミュージカルを観劇した。それはブロードウェイで高い評価を受けた作品の日本での初演で、また私にとって人生で初めてのミュージカル観劇、実に初めて尽くしであった。そしてそこで私の心は、見事にその作品によって撃ち抜かれてしまったのである。

「ニュージーズ」は、一八八九年のニューヨークを舞台に、孤児である新聞売りの少年たちが逆境へ立ち向かっていく中での仲間との絆や挫折、恋、そして夢を描いた作品だ。

私はそれまで、将来になりたい自分について想像ができずにいた。好きなものはあってもそれを仕事にしたいと思える勇気がなかったのだ。しかしその日から私にも夢ができた。私もミュージカルの制作に携わってみたい。

「ニュージーズ」を見て以来大好きになってしまったミュージカルをいつかは私が作って、たくさんの人の心を動かしたい。私があの日そうされたように。

以前はなかった勇気を、今では「ニュージーズ」がくれる。舞台の上で強く生きた少年たちの歌声が、私の背中を押してくれている。

映像ではなく舞台だからこそ伝わる、歌声の迫力、人が生きていることへの力強さ、舞台全体から勇気や感動を受け取ることの爽快感は、実際に観劇した人にしかわからないものだと思う。だからこそまだミュージカルを観たことがない人にも足を運んでもらえるような、また観た人全員が誰かと気持ちを共有したいと感じるようなミュージカルを作りたい。

「目を星に向け、足を地に着けよ。」劇中のセリフの一つだ。大きな憧れを目指しながら、今自分がいる場所とやるべきことを見極めて着実に進んでいけば、きっと夢は叶う、と「ニュージーズ」が教えてくれた。この言葉を胸に私は日々を生きていく。いつか、傑作と呼ばれるミュージカルを作る日のために。